

○私たち、「ホネボラ」です!

5月28日(土)、石狩浜で「ホネボラ」が初の活動を開始しました。「ホネボラ」とは「骨ボランティア」のこと。主に、いしかり砂丘の風資料館に集まる動物たちの骨を骨格標本にしようと集まった有志の団体です。この日は3年前に漂着し、肉を取り除くため砂に埋めたイシイルカの発掘が目的でしたが、冬の間に目印が流されてしまい、埋めた場所が特定できず、ついに雨に降られて断念。「でも、まだあきらめていませんよ。来月、リベンジします!」とは、同団体のリーダーである志賀学芸員。なお、「ホネボラ」ではまだまだメンバーを募集中ですので、興味のある方はぜひお問い合わせください。

問合せ いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711



○海辺の魅力を語り合う! ERIS

5月29日(日)、かでの2・7(札幌市)で「いのちあふれる石狩湾〜海と海辺、魅力とこれからを語る〜」と題したフォーラムが開催されました。石狩浜海浜植物保護センターの企画で、基調講演では、積丹町でダイビングショップを営み、海のエコツアーなど行う藤田尚夫さんが講演。積丹の海の魅力を自ら撮影した映像で紹介する一方、「自然の恵みには限りがある。これからは一人一人がもっと消費のあり方を考え、大事に食べていかなければ」との警鐘も。続いてパネルディスカッションが行われ、いしかり砂丘の風資料館の志賀健司学芸員、北海道自然体験学校N EOSで環境教育プログラムを提供する代表の高木晴光さん、北海道大学大学院農学研究院助教の松島肇さんが登場。藤田さんとコーディネーター役の作家の横松心平さんも加わって、約100人の聴衆を前にそれぞれの専門分野から熱く海辺の魅力を語りました。



黄色いステッカーが目印のカリブラ号。
スタッフ3人(左から松本さん、吉田さん、
相馬さん)が皆さんのところに伺います。

基調講演の講師、藤田尚夫さん。

5人で行われたパネルディスカッション。

○ふるさと浜益に桜咲く

平成21年9月に関東浜益倶楽部・札幌浜益倶楽部・小樽浜益会の3団体に寄贈いただいた「ふるさと浜益げんき桜」が、5月30日(月)に開花しました。写真は浜益温泉公園に咲いた一輪。まだ小さな木ですが、ふるさと浜益を思う気持ちが伝わったかのようにすくすくと成長しています。



○カリブラ号発進!

6月7日(火)から始まったFMラジオ番組「Ishikari Platto Radio〜カリブラ!」。スタッフを乗せた取材車の「カリブラ号」が石狩市の魅力を求めて走り回っています。7月の放送では、あそびーち石狩、浜益ドライブ案内、児童館まつり、藤女子大学、ガイドボランティアを紹介する予定です。(放送:毎週火曜12:30〜12:55 AIR-G' 80.4MHz)



○浜の味で一日も早い復興を

5月22日(日)、石狩湾漁協あつた港朝市部会が東日本大震災の復興に役立てようと、チャリティー鍋を行いました。当日はホタテ稚貝のみそ汁約1,000食を用意し、肌寒い中1,000人近くの方が訪れ、温かい浜の味を堪能しながら被災地の復興を願っていました。集まった義援金(11万円)は全国漁業協同組合連合会を通じ、被災地へ送られます。



○植樹を通して環境保全を学ぶ

5月22日(日)、厚田区小谷の「あつたふるさとの森」で、石狩市子ども会育成連絡協議会主催の植樹事業が行われました。イタヤカエデ・ミズナラ・ヤチダモ・カンワの計100本の苗木を市内全域の子どもたち50人が丁寧に植樹。参加した中村帝紀君(小5)は「初めて木を植えました。ばくの背と同じくらいになったら見に来たい」と話していました。



○黄金山見て育てね

5月27日(金)、例年より1週間遅れで浜益小学校の田植えが行われました。高学年のお兄さん、お姉さんが1・2年生に教えながら、泥まみれになって植えた苗。浜益の豊かな自然の恵みを受け、秋には立派な穂を実らせてくれることに子どもたちは期待を込めていました。



○JAいしかりから30年ぶりの献穀者

5月28日(土)、新嘗祭^{にいなめ}※に新米を献上するための「献穀米御田植祭^{にいなめ}」が、美登位にある新居直樹さんの水田で行われました。新居さんは、イスクリーン米の生産に積極的に取り組むメンバーの一人。このたびJAいしかりから30年ぶりの献穀者に選ばれ、「米生産者としては大変うれしい、名誉なこと」としみじみ語ります。10月下旬には新居さん自身が皇居に精米を持参する予定です。

※収穫されたばかりの穀物を天皇が神に供える儀式のこと。毎年11月23日に開催。



五穀豊穡を祈り、早乙女たちによる田植えが行われました。

新居さん(写真手前左)とご家族